

別記様式

議員派遣報告書（閲覧用）

平成 28年 4月 22日

岐阜県議会議長 様

岐阜県議会議員 伊藤 秀光 印

下記のとおり議員派遣業務が終了しましたので、報告します。

記

派遣目的

岐阜県産品のPR活動と岐阜県産品の流通事情の調査や観光事情の調査。

行程表（別紙①のとおり）

派遣成果（詳細は別紙②のとおり）

日付	成果の概要
11月2日	・Japan Tourism Week オープニング出席
11月3日	・World Travel Market 視察 ・ジェトロ ロンドン面談 ・クレア ロンドン面談 ・飛騨牛フェア出席
11月4日	・ジェトロ パリ面談 ・JNTOパリ面談
11月5日	・クレア パリ面談 ・GAS視察 ・美濃和紙展示会オープニングセレモニー出席

県政に活用できる事項

県担当課	内 容
国際戦略推進課 企業誘致課	<p>欧州企業の日本進出と日本（県内）企業の欧州進出の現状と方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジェトロの重要事業のひとつとして対日投資促進活動があり各種支援事業の活用をすること ・ジェトロが日本で開催する海外バイヤーとの商談会の県内企業への情報提供とその周知徹底すること ・フランスで開催されるB to B（ビジネス対ビジネス）の見本市への参加の情報提供とその周知徹底すること
地域産業課	<p>ロンドン、パリにおける県産品の輸出促進の方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジェトロの支援事業の活用をすること ・現地でのニーズの調査等のためにGASの活用をすること
農産物流通課	<p>ロンドン、パリにおける飛騨牛の輸出促進の方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジェトロの支援事業の活用をすること ・価格競争に勝つためにはレシピ（料理）の開発をすること ・本県にはEU向け和牛の認定処理施設の飛騨食肉センターが所在するため、その強みを生かすこと（輸送コストの削減など） ・食肉の工程管理（ハサップ）とイスラム社会への対応（ハラール認証の取得）
観光誘客課	<p>外国人観光客の誘客促進策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光地のお土産屋でクレジットカードを利用できる店を増やすこと ・観光地でのインターネットが活用できるWi-Fi等の設置をすること

収集資料（別添のとおり）

海外事情調査報告書

視察先 ロンドン・パリ

期間 2015年11月2日～11月6日

イギリス・フランスでの岐阜県産品の PR 活動と 岐阜県産品の流通事情の調査や観光事情の調査報告書

岐阜県議会議員
伊藤秀光

岐阜県では平成 21 年度から、官民が協働し、主に成長著しいアジアをターゲットとして、「観光・食・モノ」を一体化して総合的な岐阜県 PR を展開し、海外誘客と県産品の輸出向上につながる「飛騨・美濃じまん海外戦略プロジェクト」を推進してきました。私自身も平成 21 年 11 月 16 日～20 日に香港とタイへ。平成 24 年 2 月 20 日～30 日にはシンガポール・タイと 2 度にわたって古田知事、議長、民間関係者とともに、現地を訪問し、海外誘客と県産品の輸出について勉強できたこと、またトップセールスに参加できたことは、とても有意義なことでした。

今回、ロンドンで開かれている旅行博への岐阜県のブースの出展や、欧州にも飛騨牛の輸出が 7 月から解禁されたことも合わせて、初めて欧州へ、ロンドン・パリへ、これまで同様、古田知事、足立議長、関係自治体首長、JA 関係者、民間関係者とともに、視察の機会を得たことは、とても有意義でした。3 泊 5 日の強行日程ではありましたが、古田知事一行とは別の、ジェットロはじめ国の出先機関を訪問し、岐阜県と現地機関との連携等、いろいろ意見交換を行ってきました。少しでも県政に生かせればと思っています。各機関を訪問するたびに、古田知事のもつネットワークの広さにも感銘いたしました。さらには、他県のアプローチも激しく、こうした競争に打ち勝つために、トップセールスの大切さも実感してきました。

一人での視察は、少し不安もありましたが、道行く留学中の日本人や、地下鉄での優しい英国人の道案内と、団体では味わえない心温まる人々との出会いに、一人で行くと決意して良かったと思いました。私と関わってくださった多くの皆さんが不思議と岐阜県との繋がりも多く、ご縁に感謝申し上げます。

それでは、順次視察先の様子を写真と文章、そして視察先でいただいた資料や新聞報道も含めて報告させていただきます。

～ 11 月 2 日（月）～

11 月 2 日、私は現地時間 18 時 30 分、ジャパン・ツーリズム・ウィーク・オープニングセレモニーに間に合うように、中部国際空港 7：55 発、羽田空港行きに、そして羽田空港 11：40 発、ロンドン行きに一人で搭乗してロンドンに向かいました。久しぶりの一人での旅立ちは、少々心配もよぎりました。結果的には、地下鉄やバスに乗ることもでき、いろいろな人との出会いは、とても有意義でした。羽田からロンドンまでのフライト時間は約 12 時間ととても永いのですが、隣の席が空いていたということもあり、休むこともでき、意外と楽に、またスムーズに着くことが出来ました。ヒースロー空港には、ガイドの村松さんが出迎えてくださり、地下鉄でホテルに向かいました。9 時間という時差もあまり感じず、ホテルにチェックイン後にすぐにタクシーで日本大使館に向かい、ジャスト 18 時 30 分に着くことができました。通貨はユーロだと思っていましたが、ポンドと知り、慌てて空港で交換しました。



羽田空港 出発



ヒースロー空港 到着

ジャパン・ツーリズム・ウィーク・オープニングセレモニー

【日時】 11月2日（月）18：30～21：00

【場所】 在英日本国大使館 2階ボールルーム

Embassy of Japan 101-104 Piccadilly London W1J 7JT

【主催者】 在英日本国大使館、JNTO ロンドン事務所

【出席者数】 約 200 名

英国側—約130名（英国旅行関係者、メディア関係者、影響力のある著名人など）

日本側—約 70 名

大使館関係者（林大使）

JNTO ロンドン事務所（三上誠順 所長）

岐阜県関係者（岐阜県—知事・議長・佐藤県議・私（伊藤県議）

農政部長・観光国際局長・観光国際戦略顧問・農産物流通
課長・地域産業課長・国際戦略推進課長）

（市町村—美濃市長・関市長）

（観光—県観光連盟理事・養老町観光協会長（滝元館社長）中村一
株美ら地球 社長 山田拓

東濃歌舞伎中津川保存会 市川尚樹ほか 4 名

郡上市観光課職員）

（全農関係者—全農岐阜県本部運営委員会会長 足立能夫

全農岐阜県本部長 桑田博之

全農岐阜県本部営農販売支援部長 矢野昌彦

全農岐阜県本部畜産部長 川尻哲男

飛騨ミート農業協同連合会長 駒屋廣行）

（地酒関係者—株三輪酒造 社長 三輪研二

株小坂酒造場 社長 小坂善紀）

（マスコミ—岐阜新聞記者 井上吉博、中日新聞記者 小川慎一、

岐阜放送記者 加藤祐志、名古屋東通企画(岐阜放送委託)矢野文彦)

他の自治体等 (福岡県 小川洋知事、愛知県、岩手県、東京観光財団、北海道スキープロモーション協議会、関西エリアプロモーション (大阪・神戸・城崎温泉)、九州観光推進機構、沖縄観光コンベンションビューロー ※福岡県以外首長の出席はなし)

【行事の主旨】英国では、11月2日～5日までのワールド・トラベル・マーケット及び、スキー&スノーボードショー (11月5日～8日) と二つの大規模な観光関連イベントが開催されます。当セレモニーは、これらのイベントに参加する自治体や旅行会社と英国のメディア関係者及び旅行関係者との関係を構築することを目的として、在英日本国大使館と JNTO ロンドン事務所が開催するものです。県はこの機会に観光・食・モノの PR を行い、岐阜県への誘客を促進します。

【タイムテーブル】

18:30 開会 (司会：大使館)

①主催者挨拶 (林大使)

②参加自治体代表挨拶 (岐阜県知事・福岡県知事)

③英国旅行メディア代表挨拶

(ジェイムズ・ケイ氏「ロンリープラネット」旅行ガイドブック
グローバルエディター)

④参加自治体紹介 (JNTO ロンドン事務所長)

18:53⑤鏡開き

18:57⑥乾杯 (小堀守 JNTO 理事)

19:00⑦試食・歓談

【展示内容】本県を含む各参加団体が会場内に設けられた各 PR コーナーにおいて、「観光、食、モノ」の PR を実施

[本県の展示・試食]

・観光 PR コーナー

「忘れ得ぬ岐阜」観光パンフレット、観光 DVD、観光ポスター等

・食・酒コーナー

飛騨牛たたき握り、サイコロステーキ、富有柿

白川郷炭酸純米 泡にごり酒 (三輪酒造)

百春 純米吟醸 (小坂酒造場)

・ステージ

地歌舞伎「岐阜自慢三人男」

・お土産

美濃和紙装飾用品、油取り紙、折りたたみはさみ、さるぼぼ

【知事の挨拶】

本日は、このセレモニーに多数の方々にご出席いただき、厚く御礼申し上げます。また、このような、ネットワーキング（交流）の場を与えていただいた、林大使、三上 JNTO ロンドン事務所長にも感謝申し上げます。

今年は、この素晴らしい英国にて岐阜県を紹介させていただく初めての年。岐阜は、多くの清らかな川をはじめとして、四季それぞれに豊かな表情を見せる美しい自然が残る場所。豊かな自然は、飛騨牛などの安全でおいしい農産物を育み、和紙や刃物、木工製品などの伝統工芸品を生み出してきた。

本日は、7月に欧州への輸出が解禁になったばかりの飛騨牛や、清らかな水で仕込んだお酒、昨年世界無形文化遺産に登録された1300年の歴史を誇る美濃和紙などを展示している。目と舌で味わっていただき、岐阜を感じていただきたい。そして、次は、実際に岐阜へ足を運んでいただき、本物を体験していただきたいと願っている。

岐阜県には、食や伝統工芸品だけでなく、世界遺産白川郷、飛騨高山などの有名な観光地や温泉、スキーなどのアクティビティも充実しているため、きっと岐阜県での滞在を楽しんでいただけると思う。

最後に、今回、このような立派な会を開催いただいた、林大使を始め、大使館、JNTO ロンドン事務所の皆様に感謝申し上げますとともに、本日ご参集いただいた皆様方への感謝を申し上げます、と挨拶されました。

調査内容と考察

会場には、福岡県、愛知県、岩手県、東京観光財団、北海道スキープロモーション協議会、関西エリアプロモーション、九州観光推進機構、沖縄観光コンベンションビューローなど、どの県も我が県や我が町、地域の宣伝のパンフレットや記念品を配布して、誘客アプローチをしてみえました。別室には、岐阜県の三輪酒造の白川郷炭酸純米「泡にぎり酒」、小坂酒造場の純米吟醸「百春」、富有柿も配られていました。大垣の名物、枳にお酒をついでお酒の売り込みにも力が入っていました。福岡県からは八女茶が出されていましたが、大垣の北部、揖斐川町・池田町も茶どころです。こうしたところに出展してもいいのかなあと感じました。また飛騨牛を使ったお寿司、エビフライ、シュウマイなど日本食も振舞われ、多くの英国人もおいしくたしなんでみえました。

ステージでは、中津川の地歌舞伎「岐阜自慢三人男」も登場、岐阜県の観光を官民一体となつてのPRは他県を圧倒していました。東濃歌舞伎中津川保存会の3人の歌舞伎役者と写真を撮る方もたくさんみえ、会場の雰囲気盛り上げるのに一役かかっていました。日本文化への関心はとても高いように感じました。

知事は参加自治体の代表としてあいさつをされた後、林大使、福岡県知事、JNTO ロンドン事務所長らとともに鏡開きにも参加されました。その後、会場内を回り、英国メディア等に岐阜県の魅力を伝え、観光をPRするとともに、英国人を誘客するためには何が必要か、参加者と積極的に意見交換をされていました。



古田知事あいさつ



鏡開き



乾杯 小堀 JNTO 理事



中津川地歌舞伎



歓談風景 (日本大使館)



～ 11月3日(火)～

ワールド・トラベル・マーケット

【ワールド・トラベル・マーケットの概要】

通称：WTM2015

開催期間：2015年11月2日～5日（4日間）

出展者数：186の国と地域から約5,000団体

入場者数：観光関係者約5万人

【場所】エクセル・ロンドン

One Western Gateway, Royal Victoria Dock, London

【主催者】Read Travel Exhibitions

【出展者】ジャパン・パビリオン（15団体）

1.日通旅行株式会社 2.関西エリアプロモーション（大阪・神戸・城崎温泉）

- 3.ハナツアージャパン 4.ビッグホリデーインターナショナル株式会社
 - 5.一般社団法人九州観光推進機構 6.沖縄観光コンベンションビューロー
 - 7.株式会社日本旅行 8.株式会社JTB グローバルマーケティング&トラベル
 - 9.東日観光株式会社 10.岐阜県 11.カンデオホテルズ
 - 12.株式会社阪急交通社 13.株式会社コックス・アンド・キングス・ジャパン
 - 14.株式会社プリンスホテル 15.近畿日本ツーリスト
- 単独ブースー東京ブース

【行事参加の趣旨】 欧州からの誘客を進めるため、世界各国の旅行業界関係者が来場する欧州最大級の業界向け旅行博「ワールド・トラベル・マーケット」に初めてブースを出展し、岐阜県として英国をはじめとする欧州から岐阜県への観光客の誘客のため、岐阜県の魅力をPR。英国、イタリア等の旅行会社、旅行メディアなどと商談、PRを行う。岐阜県ブースはJNTOが設置するジャパン・パビリオン内に展。2日は展示会初日で招待者のみの入場となります。

【ワールド・トラベル・マーケットの概要】

世界各国から国家・地域観光局、自治体、旅行会社、ホテル、航空会社、交通関係会社、旅行メディア等が出展し、欧州を中心とした旅行業界関係者等と商談を行う欧州最大級のB to B（ビジネス対ビジネス）イベントです。

【視察日時】 11月3日（火）10：00～12：00

調査内容と考察

本来なら11月2日オープン前の内覧会に知事一行と来る予定でしたが、日程上3日となり、一人での視察となりました。オープンしてからの会場入りということもあり、多くの関係者とお話できたことは、かえって良かったと思いました。ガイドの村松さんのお話では地下鉄がストライキということで、地下鉄で行けるところまで行って、後はタクシーで行くことにしていましたが、おかげ様で、これだけの博覧会ということもあり、会場の駅まではストライキもなく、スムーズに行くことができました。

中東地域、アジア、中南米のサウスホールを中心にまわりましたが、ペルー、ブラジル、メキシコ、インド、オマーン、モロッコ、アブダビなどでは、展示スペースの大きさにびっくりしました。反面、日本のスペースはとても小さかったです。ただ、ピンク色の桜の花でアレンジしてあり、日本らしくあったかいイメージがあつて良かったと思いました。その中でも単独で岐阜県のブースが作ってあったことは古田知事の意気込みを感じました。

会場では、たくさんの方々が来場されていました。世界には行ったことのない国々、先入観だけで貧しいと思いついでいる国、また行ってみたいところがたくさんあると感じました。

次の視察先のため、ガイドさんとは1時間～1時間半の見学時間の約束でしたが、会場の広さ、私の好奇心もあり、各国の関係者との対話により、予定を大幅に遅れ、2時間半くらいの視察となりました。モロッコのブースでは、岐阜県の花フェスタ記念公園に、モロッコガーデンがあること、古田知事は、モロッコから緑十字章をいただいていることをお

話したら、マラケシュの関係者から、12月14-16日にフェスティバルがあるから招待する、と言われましたが、議会開会中になるので、難しいと答えました。各国が海外誘客に真剣に取り組んでいる様子に感動しました。これを機に一人でも多くの外国人に岐阜県への誘客が図られることを願ってやみません。

ワールド・トラベル・マーケット（WTM）での視察は、わずか2時間半程度であり、そのうちの日本のブース、そして岐阜県となると20分程度の視察となり、5日まで続いた実績・成果というものがわかりかねます。そこで岐阜県のブースに参加してみえた榊美ら地球のマネージャーの白石様より、自社のプロジェクトチーム SATOYAMA EXPERIENCE が岐阜県と一緒に取り組んでいることも話され、詳細をお聞きしましたので掲載させていただきます。

11月2~3日商談件数18社、事前アポ予約11社、当日飛び入り7社

商談成果、メディア掲載予定2件

期待を持てる話ができたとお聞きし、これを機会に多くの欧州からの誘客もはかれることを願っています。

また、某旅行会社の方の感想もお聞きすることができましたので報告します。今回の出展について概ね満足しているとのこと。商談件数、事前アポイントメント20件、当日来訪75件、有望アポイントメント件数15件あったそうです。ただ私も感じていましたが、商談スペースが狭いため、同時に複数の商談ができない、また隣の出展者の商談内容が丸聞こえになってしまうことなど、もっと広いスペースを希望してみえました。反面、桜の花で飾られたブースは、他国にない独特の雰囲気を出していて、とてもよかったと言っていました。



地下鉄



会場入口



オマーン



ブラジル



アルゼンチン



メキシコ



マチュピチュ



ドミニカ共和国



タイ



中村一養老観光協会会長



日本館



東京



台湾



ジャマイカ



ドバイ



ハンガリー



チェコ



地下鉄から会場の通路

ジェットロ・ロンドン

【日時】 11月3日（火）14：00～15：10

【場所】 ジェトロ・ロンドン事務所

MidCity Place, 71 High Holborn, London, WC1V6AL, U.K.

【面談者】 雪田大作次長、岡部文人所員

【雪田次長より説明を受ける】

○対日投資：英国企業の日本への誘致は、ジェトロ・ロンドン事務所の重点事業の一つです。日本の経済状況・ビジネス環境等についての情報発信から、有力企業に対する情報提供・ビジネスモデル提案・ビジネスマッチング・拠点設立支援等の個別支援等を通じた対日投資促進活動に尽力しています。

外国企業の多くが、東京等の大都市圏に進出することが多い中で、日本の各地域への企業誘致が喫緊の課題です。ジェトロは各自治体と連携しながら、地域の魅力についての情報発信に努めていると話されました。

例えば、製造業に強みを持つ岐阜県は、輸送用機械器具、一般機械器具、電気機械器具、プラスチックなどの出荷額が多く、優れた技術を持つ中小企業が多い等の産業的特長があります。多様なノウハウが集積し、モノづくりに強い地域に関心のある外国企業に紹介する地域の一つですとも話されました。

また、県内に進出する企業に対する「岐阜県企業立地促進事業補助金」による助成措置等のインセンティブは、企業誘致にあたり強力なPRツールです。英国からではありませんが、岐阜県に進出した外国企業には、高圧線用機器の日本ハイドロパック社があるとうかがいました。もっと外国企業の県内誘致を願わずにはられません。

○英国への輸出促進・観光促進：

岐阜県は、全農との連携により、英国内における飛騨牛の販路拡大に積極的
に取り組まれています。本年11月2日-8日には、ロンドンの複数の日本食レ
ストラン・メニューに、飛騨牛が並びました。

また、岐阜県は、伝統産品や地酒等の地域の魅力を活かして、観光促進活動
にも力を入れています。11月2日に在英日本国大使館で開催されたJapan
Tourism Partyでは、古田知事によるトップセールスで観光PRに頑張ってみ
えます。

調査内容と考察

イギリスでの JETRO の活動の説明を受け、英国の経済投資状況、対日状況、対岐阜の
状況の説明を受けました。特に、今年ロンドンで開かれました、ラグビーワールドカップ
のロンドン大会にて、日本勢の活躍と、2020 年東京オリンピックの開催などで、日本へ
の関心が高まっている。ラグビーワールドカップのことは、タクシーの運転手さんも日本
はずばらしいと言ってみえました。とてもうれしくチップをはずみました。

イギリス企業には、再生可能エネルギーの分野、再生医療の分野で、日本に進出しやす
いと説明がありました。観光分野では、アジア向けにビザの発行を緩和している。日本側
には、観光客受け入れに際し、インターネットの利用ができるように Wi-Fi などをもっと
整えるべき、そしてクレジットカードの利用を促進してほしいと要望も受けました。

日本の企業としては、ラーメンの一風堂が 2 店舗出している。無印良品の会社も入っ
てきているそうです。なおジェトロの説明の中にイギリスが来年秋に EU から離脱するかど
うかの国民投票の実施の可能性もあるとうかがいました。ユーロが使えないわけがわかり
ました。



雪田次長、岡部所員と面談



雪田次長・伊藤議員・岡部所員
(左から)

クレア・ロンドン

【日時】 11月3日(火) 16:20~17:00

【場所】 クレア・ロンドン事務所

15 Whitehall, London SW1A 2DD, UK

【面談者】 嶋一哉所長、山田さん(岐阜県より出向)

調査内容と考察

嶋所長から、英国の一般的な事情、政治、地方自治、経済、日本との交流等、ご準備いただいたパワーポイントを活用して説明を受けました。こちらには岐阜県より山田さんが出向してみえ、ご活躍中です。

クレア（CLAIR）とは、Council of Local Authorities for International Relationsの頭文字をとった、日本語では一般財団法人 自治体国際化協会といます。クレアは世界で7カ国にあります。ロンドン・パリ・ニューヨーク・シンガポール・シドニー・北京・ソウルです。

イギリスは、4つの国（スコットランド・ウェールズ・北アイルランド・クインズオブイングランド）から成り立っていて、それぞれに議会があるということ、通常のイギリスと言われるのは、クインズオブイングランドで、地方自治体は、議会が中心で、議員は全員ボランティアであり、議員の代表である議長が市長になる場合がほとんどで、公選の市長は15人だけとうかがいました。



嶋所長よりパワーポイントで説明を受ける



嶋所長との面談



嶋所長と

飛騨牛フェア

【日時】 11月3日（火）18：30～21：30

【場所】 The Zetter Hotel (Bistrot Bruno Loubet)

St John's Square 86-88 Clerkenwell Road London EC1M 5RJ U.K.

【主催者】 岐阜県

【出席者数】 約 80 名

イギリス関係者（約 55 名）

- ・流通・レストラン関係者 山岸豪（T&S Enterprises Ltd 社長）
多田充利（全農インターナショナル欧州所長）
その他

・メディア関係者

・在イギリス日本国大使館 林景一（大使）

平中隆司（参事官、農水アタッシュェ）

・その他 藤原美喜子（㈱アルファ・アソシエイツ社長）

岐阜県関係者（約 25 名）

- ・ 県 知事、同令夫人、農政部長、観光国際戦略顧問
- ・ 議会 足立議長、佐藤議員、小原議員、篠田議員、山本議員、酒向議員、松岡議員、田中議員、野島議員、高殿議員、私（伊藤議員）
- ・ 市 武藤鉄弘（美濃市長）
- ・ 民間 足立能夫（全国農業協同組合連合会岐阜県本部運営委員会会長）
桑田博之（全国農業協同組合連合会岐阜県本部長）
矢野昌彦（全国農業協同組合連合会岐阜県本部営農販売支援部長）
川尻哲男（全国農業協同組合連合会岐阜県本部畜産部長）
駒屋廣行（飛騨ミート農業協同組合連合会会長）
中村一（県観光連盟理事）
今西一之（ANA 名古屋支店長）
鹿野内国裕（ANA 名古屋支店法人部販売担当部長）

【行事の趣旨】・ 県では、JA 全農岐阜と連携し、アセアン地域を主体に飛騨牛と富有柿の輸出に取り組んでおり、継続的な取組の効果もあって、特に香港、タイへの輸出は大きく伸びた。

- ・ 和牛の EU への輸出については、平成 25 年 3 月 29 日付けで解禁となったことから、平成 26 年度に新たな輸出先ターゲットに定め、継続的な輸出の実現に向けて取り組みを開始。
- ・ 平成 26 年度は、飛騨牛を初めて EU のフランスに輸出（群馬県の処理施設で委託処理）、「岐阜県・飛騨牛フェア」をパリの伝統ある老舗ホテル「ウエストミンスター」と共催で開催。現地の政府要人、メディア等情報発信力に優れた各界要人を招待、飛騨牛を PR.
- ・ 平成 27 年度、JA 飛騨ミートが EU 施設認定を 5 月 14 日付けで取得、7 月 8 日には輸出出発式及び輸出拡大レセプションを開催、イギリスを含む EU に本格的な輸出を開始。
- ・ イギリスでの飛騨牛プロモーションは初めてであるが、すでに先行事例（高級レストラン NOBU、大使公邸等）が複数あることから、よりインパクトのある内容で実施することとし、飛騨牛取り扱い経験があり、欧州での知名度とシェフとのネットワークを有する成澤由浩氏（レストラン「NARYSAWA（東京都港区南青山）」のオーナーシェフ）による飛騨牛オリジナルメニューをシェフや著名人に提供し、PR する。

【タイムテーブル】 18：30 受付開始

19：00 開会

主催者挨拶（知事）

19：05 乾杯（県議会議長）

19：10 歓談

【成澤由浩シェフについて】

東京：南青山「NARISAWA」のオーナーシェフ

料理：古典的な日本料理でもなく、フランス料理でもない成澤シェフ随一の料理

日本の里山にある豊かな食文化と先人たちの知恵をリスペクトした「Innovative SATOYAMA Cuisine（革新的 里山料理）」

理念等：・成澤シェフは「サステナビリティとガストロノミーの融合」というテーマで、世界でもいち早く自然保護に関わる料理を発表する。

・生産者のもとに足を運び、自然と向き合う中から「土のスープ」「水のサラダ」「森のエッセンス」等を生み出しました。

・天然素材である土や木をダイレクトに“食す”ことで、人々により自然を意識させようとした料理の数々は、料理人と言う立場で自然を理解し、料理をとおして環境問題を訴え続ける NARISAWA の代名詞となりました。

・日本の「森」に焦点を当てた「Evolve with the Forest 森とともに生きる」の発表は、世界中の料理学会で称賛され、2010年のマドリッド・フュージョン（世界最高峰の料理学会）では、「世界で最も影響力のあるシェフ」に選ばれました。

・現在、日本の里山文化が本来持つ、人と自然が共有し、生きていくという“自然（じねん）”の精神で、環境によく、心と身体に有益な美食を提供している。

経歴：1969年4月11日 愛知県常滑市生まれ（46歳）

その後、19歳から8年間をヨーロッパの著名なシェフのもと（フランス・スイス・イタリア）で修業を積む。

1995年 帰国

神奈川県小田原市にフランス料理店「La Napoule（ラ ナプール）」開店

2003年 店名を「Les Creations de NARISAWA（レ クレアシオン ド ナリサワ）」と改め、東京南青山に移転。

2010年 マドリッド・フュージョン（世界最高峰の料理学会）で「世界で最も影響力のあるシェフ」に選定

2011年 店名を「NARISAWA」と改め、現在に至る。

2013年 辻静雄生誕80周年記念、第4回辻静雄食文化賞 専門技術者賞受賞

2013年 The Sustainable Restaurant Award 世界 No.1

2015年 Tripadvisor TRAVELER'S CHOICE AWARD 日本第一位（世界第8位）

The Asias 50 Best Restaurants 日本第一位

The World 50 Best Restaurants 第8位、Best of Asia

【知事の挨拶】既にイギリスからの岐阜県への来訪者が急増しているが、本日の食事を楽しんでいた皆様には、ぜひ岐阜へお越しをいただきたい。

4年前、イギリスからの岐阜県の年間宿泊者数は、わずか1,600人であったが、今年は、10倍の16,000人の見込みで、47都道府県の中で8番目の多

さとなっている。ぜひ、皆様のお力で、この16,000人をさらに10倍にしていきたいと思っているので、ご協力をお願いしたい。

岐阜県は、東京と京都の間にあつて、地理的には日本の真ん中に位置している。北部に3000m級の山々がそびえ、南部に海拔0mの平野が広がる起伏に富んだ豊かな自然の中を清流が流れ、森や川の恵みを大いに受ける「清流の国」と呼ばれている。

本日、皆様にご賞味いただく本県の食を代表する「飛騨牛」は、本年7月からヨーロッパ向けの輸出を本格化したところであり、ここロンドンの初舞台を迎えた。

この晴れ舞台に、世界レストラン・トップ50の第8位に選ばれた、日本を代表する成澤由浩シェフの多大なるご協力により、飛騨牛の他、岐阜の食材を活用した特別なメニューを提供させていただくこととした。

また、本県の美濃市は、清流を活かして美濃和紙の生産が盛んである。本日、美濃市長も参加しているが、昨年11月に、この和紙の手漉技術がユネスコの無形文化遺産に登録された。

昨日から13日まで、The Proud Archivist（ザ・プラウド・アーキビスト）において、「美濃和紙展示会」を開催しているので、是非お立ち寄りいただきたい。

その他、岐阜県には、ユネスコ世界文化遺産の白川郷や、ミシュラングリーンガイド、三ツ星にランクされている高山の古い町並みなどの観光資源や、刃物、陶磁器、木工家具などの地場産品も一級品である。

「百聞は一見に如かず」であるので、是非、岐阜を訪問していただきたい。

最後に、本日ご出席の皆様方のご健勝と今後のご活躍を祈念するとともに、皆様が岐阜県へお越しいただいた際には、県民を挙げて心から歓迎することをお約束しますと挨拶されました。

【議長の挨拶】本日は、ようこそ この「岐阜県・飛騨牛フェア」にご出席くださいました。誠にありがとうございます。

「飛騨牛」をはじめ、岐阜県が自信をもって提供する食材の魅力は、成澤シェフの料理を通じて、皆様方に多くのことを語ってくれるに違いありません。

その料理の数々を、ご覧いただき、味わっていただき、どうぞごゆっくりとお楽しみいただければと思います。

それでは皆様、「乾杯！」と締めくくられました。

調査内容と考察

視察先のクレアロンドンから飛騨牛フェアの場所までは、クレアロンドンの職員で岐阜県から出向している山田さんの案内で出かけましたが、トラファルガー広場のところで、山田さんに急用が入り、一人で飛騨牛フェアの会場ゼッターホテルまで行くことになり、道行く人に尋ねながら地下鉄を利用して現地にたどり着きました。足立議長はじめ自民クラブ9名の同僚議員と合流でき、同じテーブルで食事もしました。

成澤由浩シェフのおいしい飛騨牛のいろいろな料理をいただきました。地元の有力者、地元のレストラン関係者も多く出席されており、飛騨牛の販売が成功することを願っています。

参加者からは「ジューシーで、柔らかくて、今まで食べたことがない食感が印象的だ」「もう一度食べる機会があれば、ぜひ食べたいと思う」との絶賛の声が相次ぎ、料理のプロデュース、料理を担当した成澤シェフも最後に登場に、締めくくりの挨拶をされ、会場からは、飛騨牛と成澤シェフへの称賛の拍手が鳴り響きました。

さらに、駐英国日本国大使等と懇談に臨んだ古田知事は、日本ブームが続く英国における美濃和紙等の県の地場产品及び、飛騨牛等の県農産物の販路開拓等事業展開の可能性について意見交換を実施、食肉卸業者からは「飛騨牛は和牛の中でも品質において優位にあるので、イギリスでの本格的な展開が期待できる」とのアドバイスを得たようです。



古田知事あいさつ



林大使あいさつ



会場風景



～ 11月4日(水)～

7:55 ロンドン発(ユーロスター) → 11:17 パリ北駅着

7:55 ロンドン発ということで、6:30にはホテルを出発、ガイドの村松さんにユーロスターの改札口まで送っていただきました。日本のようにベルは鳴らない、時間がきたら出発してしまうから、写真は早めに撮っておくように言われました。ハードスケジュールのせいもあって、パリ北駅に着くまでの約3時間、ほとんど寝ていました。車窓から黄色に実ったのは麦だと思いましたが、写真に収めました。



ロンドン



ロンドン



ロンドンユーロスター



車窓からの景色



フランス



パリ北駅到着



パリ北駅



パリ北駅

ジェットロ・パリ

【日時】 11月4日（水）14：20～16：00

【場所】 ジェトロ・パリ事務所

27, rue de Berri 75008 Paris, FRANCE

【面談者】 鈴木謙次郎次長、兒玉高太朗次長

【ジェットロより資料提供】 フランスにおけるデザイン製品・伝統製品の販路開拓

1. 日本企業によるパリへの店舗開設の動きが活発

- (1) 筆頭は外食。フリーペーパー「MOG MOG JAPAN」2015年春号には、「日本の味を思い出させるような料理やサービス」を提供しているとの基幹を満たした店が110店掲載。日本食の飲食店は特にオペラ地区に密集し、現地消費者も多く訪れる。
- (2) ファッション分野でも世界の情報発信地であるパリでの認知度向上が与える影響を考慮し、パリに欧州初の店舗や旗艦店を開設する動きが活発。

2. 先発日本企業がフランスを選んだ理由～世界への発信力をもつ特別な市場～

- (1) 人口は日本の約半分（約6,632万人、2015年1月INSEE）だが、合計特殊出生率が2.01人（2015年INSEE）と高く、拡大傾向にある。
- (2) 物価動向に合わせて改定される最低賃金制度（月給支給額約20万円弱、2015年INSEE）や手厚い社会保障制度のため、個人消費が底堅い。
- (3) 2012年に8,300万人（国連世界観光機関）の観光客が訪れた世界1位の観光大国であり、観光客による消費も見込める。
- (4) 世界のトレンドの発信源で、国外（含む日本）への波及効果を狙える。

3. 潜在顧客像、消費性向、販路開拓のカギ

- (1) 可処分所得は低いが、オペラの「日本人街」を支える若年層のJポップカルチャーファン、毎夏パリ北部で開催される日本文化イベント「ジャパン・エキスポ」へは、欧州全土から23万人（2013年実績）が押し寄せる。→若年層にも購入しやすい価格設定がカギ（ブックオフ・フランス）
- (2) 一部の日本文化ファンを除き、大半の消費者は新たな商品・サービスに飛び付かず、出費の判断をシビアに行う。→独自性や価値を訴求し、差別化を図れるかがカギ（ユニクロ・フランス）→消費が盛んになるクリスマス商戦も勝負どころ。ギフト商品を用意できるか。
- (3) 「メディアを通じて急激に広まり、ブーム終息とともに廃れる」ケースが目立つ日本と異なり、「利用者の口コミなどにより徐々に伝播し、息の長い固定客がつく」場合が多い。「定番商品」を好む保守的な気質も。懐に入ることができれば「新たな定番」に？
- (4) 高額商品になるほど潜在消費者の数は減り、主に高所得者層に。

BCBG;伝統的なライフスタイルを送る上流階級

BOBO;新世代の知識層。セレクトショップや小売店が密集する北マレに集う？

観光でパリへ訪れる世界の高所得者層→立地、ブランドイメージの構築も重要（ミ

キモト・45rpmSTUDIO、ミキハウス)

- (5) 歴史や伝統、職人技に敬意を払う文化的素地があり、最終的に「本場のもの」を好む。
→老舗であれば、歴史と伝統を訴求することは有効(資生堂)

4. デザイン製品・伝統製品の販路開拓 価格設定が最初にして最大の関門

- (1) フランスでの店頭上代が卸経由で日本の FOB 価格の 6 倍、経由しなくても 4 倍になることも。(仮に関税が 10%の場合)

- ・フランスでの輸入原価=日本の FOB 価格+運賃+保険+関税(仮に 10%)
- ・卸値=卸が輸入原価にマージン(40%)を加えたもの
- ・店頭上代=卸値にマージン(掛け率 2.4)、消費税を加えたもの

より知名度が高い or 高級素材の or 安価な他の商品が購入可能であればバイヤーは消費者に訴求できないと判断し、成約に至ることは難しい→競合に匹敵できる市場競争力にある価格設定が可能か。

- (2) 市場があるか(日本文化ファンは一握りに過ぎない。高額な芸術品に近づくほど困難)
現地規制・生活・習慣に卸した商品・用途を提案できるか。

(ジェトロ:海外コーディネーターによる輸出支援相談サービス)

- (3) EMS による小口輸送を嫌う小売店が多く、継続は不可→出荷体制の整備が必要

(ジェトロ:フランス向け雑貨輸出取引入門(実践編)2012年3月)

フランス向け雑貨輸出について(法務編)2012年3月)

5. バイヤーと接触するには

- (1) ジェトロが日本で開催する海外バイヤーとの商談会への参加
(2) フランスで開催される BtoB(ビジネス対ビジネス)の見本市への参加

6. 中小企業によるジェトロ活用事例

- ・いろは出版(京都府):デザイン雑貨:インテリア&デザイン見本市「メゾン・エ・オブジェ」に2年連続で出展。欧州を中心に国外の雑貨店に販路を拡大
- ・TNN コーポレーション(兵庫県):畳:「メゾン・エ・オブジェ」へ出展、海外販路を拡大
- ・バiston(岡山県):帆布を素材とする日用品・雑貨:ジェトロの「輸出有望案件発掘支援事業」を活用。「メゾン・エ・オブジェ」へ出展。パリにコレスポンデントを設置。英国の高級インテリアショップとの定期的な取引が成功したほか、ドイツ刃物メーカーとのコラボ商品の開発も実現
- ・西山産業開発(石川県):牛首袖:ジェトロの「輸出有望案件発掘支援事業」を活用。ファッション系素材の総合見本市「プルミエール・ヴィジョン」の新設コーナー「メゾン・ド・エクセプション」に選ばれ出展し、フランス大手グループの主幹メゾンから秋冬のショー及びコレクション用の生地を受注。

調査内容と考察

少し時間を間違えて早く着きました。その分、永くお話をうかがうことができ、良かったと思います。岩手県の副知事さんも先に訪問してみえました。

10月中旬の和牛ウィークにて、日本の飛騨牛と上州牛が出展されましたが、スペインの

イベリコ豚とは価格で 10 倍の差があり、レストランのメニューの中に組み込むには、低価格で食べていただくための知恵を出す必要があると言われました。

出す量を少なくして調理する、例えばフォアグラと一緒にカルパッチョとして、あまり火を通さないで出す、フランス人は歯ごたえのあるジューシーさを好むということです。前菜で出す食べ方も調査中、フライドポテトと肉をあわせる、薄く切って寿司として出す、ロンドンのオープンセレモニーでも牛肉の寿司が出されていました。食材としての牛肉には、ハサップという工程管理をきちんとするルートが必要で、イスラム圏はハラールの認定が必要。農水産品の輸出には、ジェトロが協力して検疫状態の確認が必要です。

幸い岐阜県には、EU 向け和牛の認定処理施設（全国 4 ヶ所）の飛騨食肉センターが所在することは強みであり、飛騨牛の対 EU 輸出拡大にむけて有効に機能すると思うと話されました。そして県産品の海外販売開拓には、JETRO の岐阜事務所を宜しくとも話されました。



鈴木次長と面談



児玉次長・伊藤議員・鈴木次長
(左から)

JNTO パリ

【日時】 11 月 4 日（水） 16 : 20 ~ 17 : 00

【場所】 JNTO パリ事務所

4, rue de Ventadour 75001 Paris, France

【面談者】 高橋広治所長、森由貴次長

【訪日旅行市場の概況】

- ・英国は、前年同月比 9.9% 増の 22,700 人で、9 月として過去最高を記録した。昨年 9 月に約 1,700 名の需要を獲得したクルーズが今年は催行されなかったため、伸率は 1 桁の増加に留まったものの、概ね好調に推移した。円高や英経済の改善傾向、比較的低廉な航空運賃などの諸要因が、訪日需要を後押し。メディア支援や事業者向けセミナーの開催、日本文化発信イベント「HYPER JAPAN (7/10-7/12)」への出展等、継続的な訪日プロモーションが、更なる訪日意欲の醸成に寄与している。
- ・フランスは、前年同月比 12.5% 増の 15,300 人で、9 月として過去最高を記録した。仏経済の低調と旅行市場を取り巻く環境に大きな変化はないが、継続的な訪日プロモーションの効果と円安基調の定着がフランス人旅行者の訪日意欲喚起に繋がっている。旅行事業者向け旅

行博「TOPRESA (9/29-10/2)」への出展、10/19 に開始した日系航空会社との共同広告事業、それに併せて実施するフランス観光開発機構との日仏共同観光促進キャンペーンなど、積極的な訪日プロモーションにより 10 月以降の需要拡大を目指していく。

【最近のフランス人の旅行動向及び日本政府観光局パリ事務所の対応について】

1.市場分析 (1) フランス人の旅行動向

キーワード：国内旅行、欧州、個人旅行、安近短志向

①旅行の 88.3%は国内旅行（対前年比-0.4%）、国外へは 11.7%（同 3.1%）

②国外方面別内訳：欧州 75.0%（対前年比 3.3%）、アフリカ 10.4%（同 -7.5%）、アメリカ 8.6%（同 8.0%）、アジア大洋州 6.0%（同 11.0%）

③平均旅行期間：国内 5.3 日（対前年比 0.0%）、国外全体 9.4 日（11.5%）、欧州 7.5 日（-1.3%）、アジア大洋州 16.4 日（2.5%）

(2) 訪日フランス人の動向

キーワード：長期滞在、個人旅行、オピニオンリーダー

①旅行の目的：観光が 69%、商用が 31%

②旅行滞在期間：平均 15.6 泊

③旅行形態：個人旅行が 93.7%

④特徴：フランス人は穴場を発見することがうまく、これまでも宮島、高山、高尾山などの観光地を「発掘」した。ミシュラン効果が話題となったように、フランス人の旅行動向は少なからず他の旅行者の動向に影響を与える発信源となっている。

⑤ライバルの目的地：タイ（63 万人）、中国（52 万人）、香港（22 万人）、ベトナム（21 万人）VS 日本（18 万人）

⑥訪日旅行の阻害要因：言葉の問題、距離、旅行費用・物価の高さ

(3) フランス市場を巡る動向

①プラス要因

・円高傾向の継続：2012 年 7 月には 1 ユーロ 94 円台だったが、2012 年秋以降円高傾向となり、2014 年 12 月には 149 円台に達した。最近では 1 ユーロ 130~140 円前後の為替相場が継続しており、現在は 1 ユーロ 135 円（9 月 1 日）となっている。フランス人旅行者にとって日本旅行の相対的な割安感が定着している。特に FIT 旅行者がインターネット上で滞在費用を検討する際には、割安感を直接的に実感することができる状況になっている。旅行会社へのヒアリングにおいても、訪日旅行商品の売り上げは顕著に伸びていることが窺える。

・航空路線網の充実：2013 年 4 月の KLM/アムステルダム-福岡線（週 3 便）、同 6 月のエミレーツ/ドバイ-羽田線（毎日）、同 7 月の JAL/ヘルシンキ-成田線（毎日）の就航により日仏間の航空路線の

選択肢が増加。また同 11 月にはトルコ航空／イスタンブールー成田線が増便された。2014 年 3 月末からは成田線の増便によりパリー東京の直行便が日 5 便から日 7 便に増えた。

②マイナス要因

・ 仏経済の停滞と消費意欲の減退：仏経済は近年ゼロ成長が続いており、2013 年、2014 年とも経済成長率は 0.4%であり本格的な経済成長回復には至っていない。世論調査でも、購買力の低下、レジャー関連支出の減少等、旅行業界には引き続き厳しい状況が続いている。

・ 災害等に関する不安：福島原発からの放射能や汚染水の問題は、日本での報道が減少しているため当地での報道も最近はほとんどない状況。放射能汚染に関する動向は潜在リスクとして引き続き存在するが、震災から 4 年近くが経過し訪日旅行への不安は概ねなくなっている。ただし、引き続き当地メディアに福島原発、日本の地震・火山等に関する情報が時に流されている。

・ 国際情勢：中東情勢、ウクライナ情勢等各地で紛争発生の火種がくすぶっている。旅行動向は紛争、政情不安、伝染病の流行等に影響されやすいことから、引き続きこれらはリスク要因。また「イスラム国」系のテロ組織の活動がフランス国内にも及んでおり、2015 年 1 月テロ事件が起きた。

2.目標

2014 年の訪日フランス人数は、過去最高の 178,570 人を記録した。(2015 年 1～8 月は 144,500 人で前年同期比 21.9%増)

今後は 20 万人の大台を目指し、高学歴で 30-60 代の FIT 旅行者をメインターゲットとして、現代と伝統の融合／洗練された精神性 (ZEN) / 日本食／ポップカルチャー／自然を切り口に、各種プロモーションを行っていく。

3.プロモーションの実施

(1) 旅行博等への出展：パリ (MAP) 3 月 来場者規模約 11 万人

パリ (Japan Expo) 7 月 同約 25 万人

アルザス州コルマル (SITV) 11 月 同約 3 万人

リヨン (MAHANA) 2014 年 2 月 同約 3 万人

(2) 共同広告：①航空会社との共同広告 (いずれもキャンペーン価格を提供)

メトロ駅、旅行会社ウェブサイト、日刊紙等への広告掲出を予定。

②旅行会社との共同広告 (いずれもキャンペーン価格を提供)

訪日旅行商品を取り扱っている現地旅行会社と共同でプロモーションの実施を予定。

(3) その他：セミナーの開催 メディア・旅行会社の招聘 ニュースレターの発行、ウェブサイトやフェイスブックによる情報発信

調査内容と考察

以前、県職員として林政部長をされてみえた森さんのお嬢さんが高山市役所から出向されてみえました。これもまた不思議なご縁かと思いました。高山市は職員の派遣をクレアからJNTOに移されました。各方面への積極的な対応に感動しました。

日本の地方では、まだいろいろ買い物をするにもクレジットカードが使えない、Wi-Fiがないことにより、インターネットが繋がらないなどがネックとかがいました。イギリス同様ITの整備が近々の課題であると思いました。また観光協会などでインターネットを活用して、おらが街への誘客を図ること、フランス博でアップすることなども大切で、フランス人は日本文化にとっても関心があり、そうした取組みでミシュラン登録されれば、他の旅行者にもインパクトを与えます。



高橋広治所長と面談



高橋広治所長と

～ 11月5日(水)～

クレア・パリ

【日時】11月5日(木) 10:00～11:00

【場所】クレア・パリ事務所

3, rue Scribe, 75009 Paris

【面談者】田中義明所長補佐、岡山宏二調査役

調査内容と考察

フランスの国政、地方自治制度について、説明を受けました。

上院議員と首長は、地方議員を兼ねることができるのは、驚きました。

人口10,000人未満のコミューンという市町村が約36,000もあり、そのうち2000人未

満が 90%以上とも聞き、びっくりしました。日本の地方自治の多くは、平成の大合併で小さな町村は合併してきています。

岐阜県は、アルザス地方のオーラン県と連携協定を結んでいます。クレアの仕事としては、自治体間の相互交流のお手伝い、姉妹提携などの相互訪問のお手伝い、2年に一度の日仏自治体交流会議、各種フォーラム等により経験共有の成果をより持続的なものにしていく。

各自治体のクレアを活用した交流に大きな違いがあると感じました。岐阜県の積極的な取り組みは、とてもすばらしいと思いました。高山市も以前職員を派遣していました。田中義明所長補佐は、奈良県から派遣されています。



田中所長補佐と岡山調査員と面談



岡山宏二調査員と



Discover Japan

【日時】 11月5日（木）13：00～14：00

【場所】 Maison Wa

8 Bis Rue Villedo 75001 Paris, France

【行事開催の経緯】・県では、平成 25 年度より海外で県産品の販路開拓を拡大するため、海外の小売店等と連携して県産品の継続販売を図る連携型の「海外アンテナショップ（Global Antenna Shop:GAS）構築プロジェクト」を展開しており、現在シンガポールで 2 店、スイスで 1 店、フランスで 1 店と連携関係を構築済み。

- ・フランスの GAS である「Discover Japan」については、平成 25 年 5 月（有）大澤刀剣（関市）が取引を有しているとの情報を掴み、県が訪問し、GAS 構築プロジェクトについて説明したところ、興味を示した経緯から関係が開始した。
- ・その後、ショップ側から県（地域産業課）に対し、複数の県内企業の参加を取りまとめた上で、テストマーケティングの実施に関する提案があり、平成 26 年 2 月に第 1 回テストマーケティングを実施した。
- ・平成 26 年度は、第 1 回テストマーケティングの結果を踏まえ、前回参加企業が商品を替えて再度実施したほか、新たに参加する企業を公募により加えて、11 月に第 2 回テストマーケティングを実施した。

・第3回となる今回は、Discover Japan オーナーとの協議の結果、県の過去2回のテストマーケティングの結果や日本の地域産品のパリにおける販売状況をまもって、パリ市場において継続的に取引が可能と考えられる企業、商品等の傾向を分析したうえで、オーナーのセレクトにより実施することとなった。

・なお、Discover Japan は、経済産業省が主導する「The Wonder 500」※のパリにおける事務局を担い、展示事業を行っていることから、岐阜県の「The Wonder 500」の選定商品の製造事業者をテストマーケティング参加企業に優先的に加えることとなった。

(※世界にまだ広く知られていない、日本が誇るべきすぐれた地方産品を発掘し海外に広く伝えていくプロジェクト)

【今回のテストマーケティングの概要】

開催期間：平成27年11月5日（木）～18日（水）

会場：Maison Wa（メゾン・ワ）

日本製雑貨セレクトショップ「Discover Japan」2号店

参加者：22事業者

①前回からの継続参加企業

陶磁器：カネ定製陶、カネコ小兵、作山窯、ヤマ忠木俣製陶（土岐市）

深山（瑞浪市）、山只華陶苑（多治見市）

金属刃物：大澤刀剣、志津刃物製作所（関市）

木工：大橋量器（大垣市）木仙人（中津川市）嵯峨乃や（恵那市）

和紙：アーテック（岐阜市）

②新規参加企業

陶磁器：ヤマ亮横井製陶所、丸直製陶所（土岐市）小田陶器（瑞浪市）

蔵珍窯（多治見市）、トーク（多治見市）

金属刃物：杉山製作所（関市）、ミサト工業（郡上市）

木工：郡上割り箸（郡上市）、オークヴィレッジ、TS産業（高山市）

【Maison Wa(Discover Japan 2号店、今回のテストマーケティング会場)の概要】

開店：2015年8月

立地：Discover Japan から徒歩2分

取扱品：日本製品全般（陶磁器、漆器、包丁、日用雑貨、衣類、文房具など）

店舗面積：110㎡

常駐スタッフ：2～3名

近況：常設ショールームスペースには現在、佐賀県（有田焼）、輪島商工会会議所（輪島塗）、

Discover Kansai（近畿経済産業局主導のプロジェクト）参加の事業者10社らが入っている

【Discover Japan の概要】

開店：2011年10月

立地：地下鉄ピラミッド駅から約100m、通称「日本ストリート」と呼ばれる日本料理店が軒を連ねる通りの入口にある。「ルーブル美術館」や「オペラ座」からも徒歩圏内

取扱品：日本製品（食器全般、手ぬぐい、風呂敷、和・洋服、地下足袋、雪駄、和風アクセサリー・小物・バッグ類、和柄生地など）

来店客層：日本（あるいは日本料理）に興味のある地元市民、世界各地からの観光客

店舗面積：1階35㎡（催事・ギャラリー用）、地下1階12㎡（店舗）

来店客数：月平均来店客数2,000人/月

定期的にイベントを行っており、その内容により来店客数は大きく変動する

常駐スタッフ：2名

売上高：20百万円（2014年）卸その他を入れた全体では40百万円

【GASについて】「グローバル・アンテナ・ショップ（GAS）構築プログラム」とは、県が海外の主要都市の小売店等と連携して、アンテナショップを構築し、県内企業が海外ビジネスのスキルを磨き、海外パートナーの発掘や自社製品の市場性の確認等に活用できる

・実施機関：平成25年度～27年度 3年間 予定

・目的：・自社製品を海外で売ってみたいと考えている県内企業は多いが、独自に販売ルートを構築することは非常に難しい。県が連携拠点を設けることによって、県内企業がその製品をテスト販売し、継続販売に繋げていくための場と機会を提供する。

・県内企業には、県の連携拠点との取引の中で、現地の消費者ニーズにあった商品の開発力や、営業力、海内取引のスキル等を養ってもらい、独自に海外市場を拡大していくため必要な自力を高めてもらう。

・GAS（Gifu Global Antenna Shop）は、継続的な小売や卸売機能を果たす拠点。現地の小売店や輸入商と連携し、その店舗や販路等のリソースを活用して構築する継続販売の拠点。分かりやすくアンテナショップという言葉を使っているが、これまでのアンテナショップ（自治体や企業が製品の紹介や消費者の反応をみることを目的として開設する試験的な店舗）とは異なるコンセプトの「提携型アンテナショップ」である。

・目標：・3年間で、アジア、アセアン、アメリカ、ヨーロッパ等に、県産品を継続して販売する提携型アンテナショップを構築し、県産品の海外販売の流通を確立する

開設済：シンガポール（2店）、スイス（チューリッヒ）、フランス（パリ）

開設交渉中：中国（上海）、インドネシア（ジャカルタ）、アメリカ

(オークランド、ニューヨーク、ロサンゼルス)、香港、
フランス (パリ)

新規予定：イギリス (ロンドン)、タイ (バンコク)、マレーシア (ク
アラルンプール)、オーストラリア (シドニー)

【塩川嘉章氏のプロフィール】

- 1992年 早稲田大学第一文学部美術史専修在籍中に1年間フランス留学
- 1994年 早稲田大学卒業
- 1995年 再渡仏し、ポワチエ大学美術史学科修士課程入学
- 1998年 現地日系企業に就職
- 2002年 フランスのレジデンスカード (永住権に相当) 取得
- 2005年 勤務先の代表取締役社長に就任
- 2011年 日本製品全般 (職人の手による伝統工芸品やクラフト製品を中心とし、食品や工業製品など分野は多岐にわたる) を「ホンモノの日本」としてヨーロッパ全土で紹介・販売するため、有限会社 ISONO を設立 (共同出資) し、代表取締役に就任

調査内容と考察

メゾン・ワとは、和の家→平和の家、輪の家→家族が一体となった家、という意味をお話されました。このスペースは以前シャッターが下りてしまっていたところを窓ガラスにして、オープンにしたことによって、お客様が入りやすいようにしたとも話されました。たしかにどんどん人が入って見ええました。日本の伝統文化の商品を興味深く見たり、スタッフに質問してみええました。フランス人は、日本の伝統文化にとっても関心があるということです。また商品にストーリーがあることにも興味を持っているとのことでした。

展示商品の中に、日頃から大垣でよくお会いし、また私自身も商品を注文している大橋量器、ますやさんの、大垣では見たことのないカラフルな枡が展示してあり、さすが芸術の都パリにふさわしい企画商品だと思いました。その他、陶器、刃物、割り箸が展示されていました。少しでもこうした岐阜県の製品がフランス人の生活になじんで使用されるようになれば、輸出も増えていくことと思いました。

メゾン・ワの会場に近づくにしたがって、ラーメン、居酒屋、寿司、うどんなどの日本料理の店が多く見うけられ、通称日本ストリートと呼ばれる地域にあり、私も昼食にうどんをいただきました。ガイドさんのお話では、韓国人の経営者が多いとか、ちょっぴり残念な気がしました。





大垣の(有)大橋量器の枡



塩川社長さんと一緒に



Discover Japan 2号店



Discover Japan 1号店



日本料理店が並んでいました(うどんの十兵)

美濃和紙展示会 in パリ オープニングセレモニー

【日時】 11月5日(水) 16:00~16:40(帰路に着く)

【場所】 アトリエ・ブランマント

38Rue De Blancs Manteaux 75004 Paris

【主催者】 岐阜県、美濃市

【出席者】 ・在フランス日本国大使館関係者

(特別ゲスト) パドリック・レイモン (アトリエ・オイ代表)

アルマン・ルイス (アトリエ・オイ共同オーナー)

オーラル・エビ (アトリエ・オイ共同オーナー)

・岐阜県(16名) 知事、観光国際局長、観光国際戦略顧問、地域産業課長、議事調査

課長、足立県議会議長、山本県議、小原県議、篠田県議、松岡県議、野島県議、田中県議、酒向県議、高殿県議、伊藤秀光県議

- ・市町村（1名）美濃市長
- ・県内企業／団体（6名）鈴木豊美（本美濃紙保存会副会長）
 - 鈴木竹久（美濃竹紙工房代表 鈴木豊美氏の夫）
 - 石川道大（石川紙業㈱代表取締役）
 - 久家麻妃（アーテック㈱取締役社長）
 - 浅野有誠（㈱浅野商店代表取締役社長）
 - 尾関年彦（㈱オゼキ常務取締役）
- ・その他 一般来場者（100名想定）

現地バイヤー、在フランス日系機関、在住日本人、アトリエ・オイ社のビジネスパートナー等に招待状を送付するほか、展示会・テストマーケティングを委託する現地事業者の顧客にも案内

（事前の出欠確認は行わない。招待状のない一般市民の入場不可）

【行事開催の経緯、趣旨】平成26年11月の本美濃紙を含む「手漉和紙技術」のユネスコ無形文化遺産登録を契機に、この機を逃すまいと、県と美濃市、産地関係者が連携して美濃和紙活性化への取組みを一層強化するために「美濃和紙活性化会議」を設置し、平成27年8月に活性化に向けてのアクションプランを作成した。

- ・アクションプランでは「後継者の育成」「原材料の確保」「需要の確保・拡大」の3つの課題と「知名度向上」「地域の魅力向上」の2つの好機を重点対応項目として、取組みを進めている。
- ・今回、そうした美濃和紙活性化のための取組みの一環として、世界有数の情報発信拠点でありパリにおいて美濃和紙の展示会とテストマーケティングを実施することにより、パリから世界に向けて、広く美濃和紙の魅力を発信し、知名度向上・ブランド力強化及び新たな需要の開拓につなごうとするもの。

【オープニングイベントの概要】5日～16日まで実施される美濃和紙展示会のオープニングにあたり、お披露目として、現地デザイナーやバイヤー、クリエイター、メディア、アーティスト、ミュージアム関係者などを中心に広く岐阜県及び美濃和紙をPRするため開催

○提供食材：県からの食材

- ・地酒 ㈱小坂酒造場「百春・純米吟醸」
 - ㈱三輪酒造「白川郷純米・にごり酒」
 - (有)蒲酒造場「白真弓・じゃんぱん」
 - 天領酒造㈱「純米吟醸・ひだほまれ天領（竹籠入り）」
 - (有)渡辺酒造場「蓬萊・上撰」

- ・加工食品 かゆり柿 (有)かゆりファーム/岐阜市
平成椎茸スナック (株)エコピア平成/関市
岐阜のかりんとう (株)サラダコスモ・ちこり村/中津川市
柿羊羹 (株)榎谷/大垣市 ほか5種
- ・その他 ワインやシャンパンを提供 (現地調達)

【展示会の概要】

○実施期間：平成27年11月5日～16日(12日間) 11時～19時

○展示内容：・「和紙とあかり」「和紙のある生活」という切り口から、さまざまな展示を実施し、「美濃和紙の可能性」について訴求する。

- ・「和紙とあかり」セクションでは、イサム・ノグチ氏が長良川鵜飼いの漁火が川面に映る美しさから発案された世界に誇るあかりの他、その影響を受けたデザイナー内田繁氏やスイスのパトリック氏など、県内企業とのコラボによって開発されたあかりの作品を豪華に美しく演出する。
- ・「和紙のある生活」セクションでは、日本だけでなく、欧州の日常空間にマッチするインテリア装飾や美濃和紙と岐阜の匠の技により作り出された各種和紙製品を展示するとともに、併せて本美濃紙など、紙そのものの魅力や多様性も紹介する。
- ・その他、会場内ではパネル等により「本美濃紙の紙漉き技術」「イサムノグチと岐阜提灯」「アトリエ・オイと岐阜県」などを特集して紹介する。

○展示品：和紙照明 (minoi/パトリック氏コラボ製品) 浅野商店 (岐阜市)

和紙照明 (AKARI)	オゼキ (岐阜市)
和紙照明 (ペーパームーンほか)	浅野商店 (岐阜市)
和紙照明 (GEMINI LAMP ほか)	林工芸 (岐阜市)
文房具 (一筆箋・封筒等)	紙漉高橋 (美濃市)
文房具 (ノートブック、メモ)	古川紙工 (美濃市)
本美濃紙	澤村正、美濃竹紙工房 (美濃市)
スノームレイク	家田紙工 (岐阜市)
和紙カード入れ	セントラルレイティング (岐阜市)
美濃和紙タオル、靴下	松久永助紙店 (美濃市)
その他、おりがみ、本美濃紙ピンズ、花瓶カバー、和紙バッグなど約50点	

○美濃和紙ワークショップ

実施日時：11月5日・6日

実施内容：本美濃紙の魅力を感じていただくために2種類のワークショップを実施
本美濃紙保存会の会員・研修生が本美濃紙について紹介しながら製作指導する

①バラの花づくり

- ・欧州で生活の中に身近にある「花」をモチーフにした製作体験を通じて和

紙への関心を高める。

・本美濃紙を切ってバラの「花びら」や「がく」「葉」などのパーツを作り、バラの花に仕上げていく

・材料は本美濃紙保存会の鈴木豊美副会長が準備

②折紙体験

・折り紙で「鶴」や「小箱」などを折る

③和紙人形製作（11月5日のオープニングのみ実施）

・オープニングイベントに参加する石川紙業㈱石川社長が和紙製の丸い人形（和紙ころころ）を使ったワークショップを実施（絵付けや装飾により動物等を作る）

【美濃和紙テストマーケティングの概要】 ギャラリー展示と連動して美濃和紙製品のテストマーケティングを実施

会場：アトリエ・ブランマント（展示会場と同会場）

実施期間：平成27年11月5日～16日（12日間）

販売製品：本美濃紙（澤村正）、本美濃紙（美濃竹紙工房）

和紙ランチョンマット、コースター（アーテック）

本美濃紙ピンズ・本美濃紙おりがみ・スノーフレイク（家田紙工）

KAMON Deco（家田紙工）

一筆せん・封筒・ぽち袋（紙漉高橋）

美濃和紙タオル・和紙靴下（松久永助紙店）

カード入れ・シフ（紙布）ケース（セントラルトレンドィング）

和紙ころころ（石川紙業）2アイテム

花瓶カバー5アイテム、和紙バッグ4アイテム（林工芸） ほか

【ゲスト等の略歴など】

○アトリエ・オイ社 共同経営者3名

パトリック・レイモン（アトリエ・オイ代表）

アルマン・ルイス（アトリエ・オイ共同オーナー）

オーラル・エビ（アトリエ・オイ共同オーナー）

・スイスのラ・ヌーヴヴィルにおいて、3名のデザイナー兼建築家

1991年に創設されたデザイン会社 atelier oi（アトリエ・オイ）の3名の創設者の1人

・スイス建築協会（FAS）とスイス建築家デザイナーズ協会（VSI ASAI）メンバーとして活躍している建築家及びデザイナー

・1991年の創立から20年以上、建築、デザイン、インテリアデザイン、舞台美術等、ジャンルを超え多岐にわたった芸術的活動は国際的にも認められている。

・2001年の European Museum of the Year Award、2012年の iF Design Award など受賞

・LOUIS VUITTON（フランス）、Victorinox（スイス）、Bulgari（イタリア）等との取引がある。

- ・日本においては、建築家の坂（ばん）茂（しげる）氏との共同事業で銀座のニコラス・G・ハイエックセンター（スウォッチグループジャパン株式会社）のインテリアデザインの一部を手がけた。
- ・2014年には、渋谷のBunkamuraギャラリーでのヴィクトリノックス展覧会のシノグラフィーを手がけ、2015年1月には東京オペラシティで開催されたスイスデザイン展にてオイ社の作品も出展。
- ・2014年9月県内の和紙業界と繋がりがあったスイスのトーマス・メルロー&パートナーAG社のめぐみ・メルロー氏の紹介により、アトリエ・オイ社のメンバーが初めて岐阜県を訪問。同社の代表兼デザイナーであるパトリック氏は、岐阜県が誇る豊富な伝統工芸品等の匠の技に興味を持ち、その後、3回の岐阜県訪問や招聘事業を通じて、美濃和紙や岐阜提灯、木工家具など県内企業との連携をスタート。
- ・2015年9月に札幌で開催されたアトリエ・オイ展覧会において、県内企業とのコラボレーションにより開発した新商品を出展。

浅野商店（岐阜市）－和紙のあかり、飛騨産業（高山市）－椅子

○トーマス・メルロー（Mr.Thmas Merlo）氏

- ・スイスのディストリビューターであり、メーカーでもあるトーマス・メルロー&パートナーの代表（Thomas Merlo & Partner AG[1990年創業]）
- ・世界各国の優れたデザインプロダクトの輸入はもとより、Thomas Merlo&Partner AG社によって製造されたスイスデザイングッズは、欧州各地のハイエンドショップやブティック、ミュージアムショップなどで販売されている。
- ・代表的な商品として知られるペーパーマガジンラック「TMP Paper Collector」は、発売以来4半世紀に渡るロングベストセラーとなっており、いまやスイス人の7人に1人は持っていると言われる。
- ・日本製品の取り扱いも多く、岐阜県では美濃市の和紙メーカー3社が開発した美濃和紙ブランド「3120シリーズ」をはじめ多数の商品の取り扱い実績がある。欧州市場において、2,000社程の取引先を持つ。

【知事の挨拶】 このたび、世界有数の情報発信拠点である、ここパリにおいて、岐阜県が世界に誇る「美濃和紙」を広く紹介する機会を得られたことを、大変うれしく思っている。

今回、みなさまにご紹介する「美濃和紙」は1300年もの昔から伝え継がれてきた伝統の手漉きの技術をルーツに発展を遂げ、現在では多様な製品を産み出し、地域を支える地場産業の一つになっている。

昨年11月、この「美濃和紙」の中でも伝統の製法で生産される「本美濃紙」の手漉技術がユネスコの無形文化遺産に登録をされた。長年、磨き、培ってきた伝統の技術が世界に認められ、産地は大いに盛り上がっている。同時に、この技術を後世に伝えていく責任を感じている。

岐阜県は、東京と京都の間にあつて、地理的には日本の真ん中に位置している。

また、北部に3000m級の山々がそびえ、南部に海拔0mの平野が広がる起伏に富んだ豊かな自然の中を清流が流れ、森や川の恵みを大いに受ける「清流の国」と呼ばれている。このような風土や清流が、この素晴らしい「清流の産物」である美濃和紙を生み出した。

本日は、本美濃紙をはじめ、多様な美濃和紙の製品を数多く岐阜から持ってきて展示し、それらを生産している手漉和紙職人や企業経営者もこの会場に駆け付けている。ぜひ、ここで、美濃和紙の素晴らしさを間近にご覧いただくとともに、職人や経営者から直接、美濃和紙の魅力についてのいろいろな話を聞いていただいて、岐阜の魅力の一端を感じてほしい。

また、本日は特別ゲストとして、世界的に著名なデザイン会社としてスイスからアトリエ・オイ社の3名の共同オーナーがこの会場にお越しにいただいている。代表のパトリックさんには何回も岐阜にお出でいただき、世界の市場を目指す県内企業との商品開発へのアドバイスをいただくなど県産品の魅力向上にご尽力いただいているが、その成果として完成した新しい作品が、今回欧州で初めて披露されるということで、とても楽しみにしている。

最後に、本日お集まりのみなさまのますますのご発展とご健勝を祈念するとともに岐阜県へお越しにいただいた際には県民を挙げて皆様の訪問を心より歓迎することをお約束します、とご挨拶されました。

【美濃市長の挨拶】1300年の歴史と文化を誇る手すき和紙「本美濃紙」の産地である、日本のまん真ん中 岐阜県美濃市から参りました、市長の武藤鉄弘でございます。

今回は世界の中心の一つであるこのパリの地で美濃和紙展を開催する事ができ、大変光栄に思います。

この企画は古田肇 岐阜県知事の強いご支援、並びに関係者の皆様の力強いご協力により開催できるものであり、大変感謝を申し上げたいと思います。

私の参りました美濃市は、古くから和紙の産地として、全国各地へ出荷するとともに、物流の拠点として栄えてまいりました。しかしながら1970年頃から、生活様式の洋風化などにより、和紙の需要が減り、年々減少の一途をたどって参りました。

しかし、近年は海外からも歴史文化に対する高い評価を受け、その良さを見直されるようになってまいりました。

なお美濃和紙は、フランス、ルーブル美術館においても絵画修復などに古くから活用されているところであります。

美濃市では1969年に「本美濃紙保存会」を設立し、手すき和紙技術を後世に残すとともに、紙産業の発展を願い、産業、文化、技術の伝承に努めてまいりました。こうしたことが認められ、昨年11月27日に、ユネスコ無形文化遺産に登録されました。

この登録は美濃市にとっても手すき和紙職人にとっても、手すき和紙の技術、文化を守ることの大切さを痛感している所であります。

本日は、手すき和紙職人の方と一緒に参りました。「本美濃紙」を使用したワークショップとしてバラ花づくりや、折り紙など日本の文化の一つを実際に手に取っていただき、紙の感触を感じていただき、素晴らしい日本の文化の体験していただきたいと思えます。

今回の訪問を今後の和紙産業の推進に生かしてまいりたいと存じます。最後になりましたが今回この展示会を開催するに当たりまして、ご協力を頂きました関係各位に重ねて深く感謝申し上げます。

ありがとうございました。

【議長の挨拶】 このたび、「伝統と格式のある街」ここ パリ において、1,300 年余りの間、磨き続けられてきた伝統の技が生み出す「美濃和紙」をご紹介できることを、大変嬉しく思います。

私たち岐阜県民が古来から受け継いできた自然・歴史・伝統・文化・技の結晶ともいえるもののひとつが、この「美濃和紙」であります。

是非とも、「感性あふれる」パリ の皆様方に、見ていただき、触っていただき、「美濃和紙」の魅力を大いに体感していただきたいと思えます。

「美濃和紙」の歴史の新たな 1 ページが、ここ パリ から始まることを祝し、また、本日も臨席の皆様方のご健勝を祈念いたしまして、乾杯したいと思います。それでは、皆様、「乾杯っ！」

調査内容と考察

会場の近くには建物の配管が露出されている芸術的な建物でフランス大統領の名前がついたポンピドー会館がありました。芸術の都パリらしいと感じ、カメラに収めました。

さて「美濃和紙展 in パリ」のオープニングセレモニーでは、帰国の時間が迫っており、セレモニーの途中で帰路につきました。

和紙を活用した提灯、バッグなど、芸術性の高いものが展示されていました。こちらでも岐阜県の地酒が大垣の枡によってふるまわれました。フランス人に和紙の文化が少しでも理解され、活用されることを願っています。

オープニングセレモニーで、知事自ら和紙を「岐阜の清らかな水、清流が育んだもの」とPRされ、照明やバッグ等多種多様な商品を念入りに見た参加者からは「美濃和紙の魅力は格別」「照明が美濃和紙を通ると、独特の雰囲気表現され、とてもすばらしい」といった感想が聞かれました。会場には、県内企業とのコラボにより、商品開発を行ったデザイナーのパドリック・レイモン氏も駆けつけ、新商品を紹介しながら、美濃和紙の高い可能性・魅力についてPRされました。



古田知事あいさつ



武藤鉄弘美濃市長あいさつ



ポンプドール会館